

【大学間連携共同教育推進事業】

学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進

第4回運営推進委員会 議事録



■日時： 2013年3月16日（土）13時30分～17時  
3月17日（日）10時～12時

■場所： 愛知大学 本館5階 会議室

■出席： 山梨大学 佐藤 眞久 (工学部 基礎教育センター 教授)  
滝口 晴生 (教育人間科学部 教授)  
成田 雅博 (教育人間科学部 教授)  
日永 龍彦 (大学教育研究開発センター 教授)  
伊藤 亜希子 (大学教育研究開発センター 助教)  
小俣 昌樹 (医学工学総合研究部 コンピュータ理工学科 准教授)  
吉川 雅修 (医学工学総合研究部 コンピュータ理工学科 助教)  
奥原 利昌 (総合情報戦略機構 係長)

愛媛大学 田中 寿郎 (教育・学生支援機構共通教育センター センター長)  
山崎 哲司 (教育・学生支援機構教職総合センター センター長)  
庭崎 隆 (教育・学生支援機構共通教育センター 副センター長)  
秋山 英治 (法文学部人文学科 准教授)  
仲道 雅輝 (先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンター 助教)  
瀧本 笑子 (研究支援部総合情報メディアセンター事務課 SL)

佐賀大学	穂屋下 茂	(全学教育機構 教授)	
	早瀬 博範	(文化教育学部 教授)	
	藤井 俊子	(全学教育機構 特任准教授)	
	古賀 崇朗	(教務課・教務補佐員)	
千歳科学技術大学	小松川 浩	(キャリアセンター長 メディア教育センター長 教授)	
	石田 雪也	(総合光科学部 専任講師)	
	山川 広人	(情報・メディア課・技師)	
	大西 哲也	(教育連携推進課長)	
	高杉 雅史	(研究推進課長)	
	山本 晃平	(教育連携推進課・臨時職員)	
	中嶋 輝明	(文学部 教授 総合情報センター長)	
北星学園大学	松浦 年男	(文学部 専任講師)	
	金子 大輔	(経済学部 准教授)	
	野原 克仁	(経済学部 専任講師)	
	高野 正明	(情報システム課 課長)	
	飛田 昌彦	(大学事務局次長 学事部長)	
創価大学	望月 雅光	(教育・学習活動支援センター 副センター長 総合情報センター 副センター長 経営学部 教授)	
	山下 由美子	(学士課程教育機構 講師)	
	畑 由美子	(教育・学習活動支援センター 助教)	
	斉藤 幸一	(教育・学習活動支援センター 助教)	
	加藤 竜哉	(進路部 部長)	
桜の聖母短期大学	佐藤 元彦	(理事長 学長)	
愛知大学	渡辺 和敏	(地域政策学部 学部長 教授)	
	新井野 洋一	(地域政策学部 教授)	
	湯川 治敏	(地域政策学部 准教授)	
	早川 勇	(地域政策学部 教授)	
	中崎 温子	(地域政策学部 教授)	
	沓掛 俊夫	(地域政策学部 教授)	
	尼崎 光洋	(地域政策学部 助教)	
	駒木 伸比古	(地域政策学部 助教)	
	石原 知英	(経営学部 助教)	
	藤田 大介	(豊橋教務課)	
	田中 佳子	(学修支援センター 准教授 (日本リメディアル学会) )	
	株式会社リアセック	近藤 賢	(取締役 CEO)
		笠井 恵美	(大学間連携事業担当)

(49 名)

## ■議事内容:

### 1. 事務局報告 (千歳科学技術大学 小松川 浩)



昨日外部評価委員会が開催され、初年度の評価を受けた。それにもとづき、今後5年間で目指す方向性の確認を行いたい。本事業の申請書には、下記の3点が明記されている。

(1) 国立・私立・理系・文系・学部・短大が協力し、英語・数学・日本語・情報等の共通基盤的な教育内容をICT活用で共有する。

(2) FD・SDを通じて各大学の教育方法も共有

しながら質の高い教育プログラムを展開して、知識を着実に展開して問題解決にあたる人材の育成を目指す。

(3) 一連の取組をステークホルダーと協働して、他大学や地域社会で活用できる汎用性の高い学習内容(教材)や方法を構築する。

今年度は、(1)の入り口がほぼできた状況である。そして最終的には、各大学が(2)の人材育成をしていくノウハウを共有するのが本事業の目標である。従って(1)と(2)は連関して動いていくことになる。各項目を具体的にみていきたい。

(1)については、

- 大学間で利活用可能な入学段階での到達度テストの整備…これは出来ている。4月から実施予定である。
- 大学間で利活用可能な共通基盤教育内容の検討 …

(知識：シラバスで明記→eラーニングの活用(入学前・補習・各授業))

(能力：ルーブリックで規定→eポートフォリオの活用(各大学の初年次教育、特色ある教育等))

…これについては、言葉の整理をしたい。知識と能力に分けて考える。リテラシーとコンピテンシーと言い換えて理解いただいても構わない。現在は、シラバスで明記できる知識を単元という形で議論し、能力については今後、創価大学で取り組んでいただいているルーブリックで規定をしていくことになろうかと考えている。実現していくには、e-ポートフォリオと併せて各大学の中で取り組んでいくことと理解している。

- 学士力基礎に関する到達度テストの整備…これについては、体制の確認をしたい。到達度テストの整備は、山梨大学がまとめているなかに、数学は山梨大学、英語は佐賀大学、日本語は愛知大学、情報は北星学園大学、学修観は桜の聖母短期大学がWGの幹事校として、コミュニケーションを十分とれた形で活動を推進していただいている。

一方で、初年次教育は愛媛大学が幹事校となってまとめているなかに、到達度WGは山梨大学、シラバスWGは愛知大学、学習教材WGは佐賀大学、学修観WGは桜の聖母短期大学がWGの幹事校として、活動を推進していただいている。初年次教育は知識と能力を統合していく取組であるが、その観点からすると、現在、知識に重点がある到達度WGが今後、ルーブリックを含めた取りまとめをしていくなかで、初年次教育として、知識と能力自体の検討に取り組んでいくこととなる。

(2) については、

- **FD・SD** セミナーの実施・各大学の取組の共有… 毎回、委員会で各大学での取組を共有している。
- 各大学で実施の特色ある教育プログラムの展開… これについて、外部評価委員から、「主体的な学び（知識編）との関係は？」「そもそも積み上げで学んでいくものなのか」「特色ある教育プログラムが先あって、そのあと、必要な知識を学ぶということもあるのではないか」「特色ある教育プログラムを通じた、主体的な学びへの還元は？」といったご質問をいただいた。各 **WG** でご議論をいただきたい。
- 事例の共有… 福島での学生間交流を今後予定している。特色ある教育プログラム **WG** は北星学園大学が幹事校となっておりまとめている。それに関連し、愛媛大学が共通基盤教育 **WG** を、桜の聖母短期大学が学修観 **WG** を、幹事校としてとりまとめながら活動を推進していただいている。この活動のなかで、学士力のベースとなる「知識」を展開して、ルーブリックで規定する「能力」養成に繋げる取組を行っていく。

(3) については、

- クラウド基盤の整備、到達度テスト・シラバスの **Web** 化（到達度判定のシステム化）  
… これによって効率を高める。
- クラウド上で学習できるシステム（**Solomon**）と各大学に配布可能な教材パッケージ（**Moodle**）の整備… この **ICT** については、本学が事務局となって推進していく。

以上（1）（2）（3）の方向性に関し、本年度の実績としては、推進会議、運営評議会、ステークホルダーとの協働ともすべて実施済みであり、各科目における入学後プレイズメントテストの整備および各科目のシラバス原案の作成もほぼ終了、本委員会で確認予定であり、初年次系の教育内容・学士力基礎の到達度テスト内容の検討もが進んでいる状況である。さらに、**FD・SD** について各大学の特色ある教育内容の共有を推進会議で行い、学修観・人間力の評価・検証としてサンプルテストを実施、特色ある教育プログラムに関しアンケート調査をスタートし、卒業生調査も実施、クラウド上の **CIST-Solomon**(学習サイト) と **Moodle** (**Show Case**)の整備、入学前教育サイトの整備（数学（一部 英語）に関する入学前教育サイトの構築と実施）、学修用教材の整備・公開（高校数学及び日本語の整備・試験公開）、公開用ポートフォリオの公開（千歳科学技術大学・佐賀大学・創価大学のシステム公開）、ステークホルダーへの試験利用実験（岩手県立大学・金沢工業大学）に取り組んでいる状況である。

来年度は、クラウドの試験運用開始（**Web** テスト、ポートフォリオ、ショーケース）、初年次学習内容の整備、シラバス [(知識) +ルーブリック (能力)] の試行策定、到達度テストの整備、eラーニング教材の整備（一英語を中心に；数学・日本語は拡充、**SPI** 対策、情報の試行整備）、初年次系の教材の整備（能力を意識）に取り組む。

上記の活動を報告した事業評価委員会での委員からのコメントは以下の通りである。

みなさん、絶賛であった。以下、質問のコメントについては、今後の活動の参考として取組んでいきたい。

- ・組織的に活動できている。各大学がきちんと動いている。
- ・計画に沿って、着実に成果を出している。
- ・質問として、ポートフォリオ上の活動状況の評価（能力に関連して）をどうするか。自己評価、あるいは他者評価（教員）について評価方法に関するノウハウを共有しながら行う、また **ICT** 活用の枠組みもさ

らに検討の必要があるのではないか。

- ・知識の積み上げのあとに知識の展開という方向ではない、能力養成のあり方をどう見るか。AO で入った場合の能力発揮から知識の積み上げへの移行や、特色ある教育プログラムに触れてから知識の定着の枠組に展開していったりすることをどう捉えるか。

## 2. 各 WG からの報告

### ① 到達度 WG (山梨大学)

- ・本日は、この後の WG の議論で、プレイスメントテストに向けて実施上の検討、到達度テストの大枠、プレイスメントテスト実施後の知識の定着について等を検討していただければと考えている。

### ② 共通教育基盤 WG (愛媛大学)

- ・資料「初年次科目コンテンツ制作に関する調査結果」については、お忙しい時期にアンケートに答えていただきありがとうございます。この結果はいったん集めてみた状態である。来年度以降、共有をどのように行っていくか、足りない教材をどうおぎなうか、資料の重なりをどう整理するかについて取組む予定である。

### ③ シラバス WG (愛知大学)

- ・各科目からはシラバスの素案、到達目標を提出いただいた。今後、プレイスメントテスト終了後のウェブ画面に掲載していくにあたり、各科目では、この内容についてご検討、ご確認をいただきたい。

### ④ 学習教材 WG (佐賀大学)

- ・これから、初年次教育の整理がついてから始まると考えている。

### ⑤ 学修観 WG (桜の聖母短期大学)

- ・PROG の結果が出たので共有をする。また、Solomon と Moodle で作っていただいた画面が一部違っているところがあるので、そこを見直す。また、シラバスについて、特色ある教育に関わってくるのだが、参考として、本大学の福島学における取組をご紹介したい。南相馬に住む人たちを元気づけるプロジェクトを 9 月 16 日に、本学の学生約 90 人と南相馬の青年部が移動文化祭として開催した。ほとんど学生たちが自分たちで企画して、結果としてとてもうまくいった。このような取組みを見える化して参考にしていくことができればと思っている。

### ⑥ 特色ある教育 WG (北星学園大学)

- ・特色ある教育について調査を実施した。お忙しい中、ご協力に御礼を申し上げる。結果は、Moodle の特色ある WG のところに入っている。ほかに、アンケート結果以外の各大学の資料も入っているのでぜひ参考にしていきたい。

### ⑦ ポートフォリオ WG (創価大学)

- ・3 大学のシステムがクラウド上に上がるので、それを e-learning 協議会に公開するかどうかを検討する必要がある。メリットデメリットを考えながらやっていきたい。また、運用ノウハウを共有するサイトの

準備が必要かと考えている。

- ・バリュールーブリックの翻訳案をお手元に配布した。抽象度が高く翻訳が難しい状態だが、昨日、京都大学の翻訳がウェブに上がっているということであったので、これから確認する予定である。

## ◎シラバス作成法について

(愛媛大学 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンター 助教 仲道雅輝)

### 「学生の授業時間外学修を促すシラバス作成法(抜粋)」

シラバス作成に取り組む際の2時間、50枚ppの内容の研修資料からいくつか抜粋してお伝えしたい。

例えば、到達目標は観察可能な動詞として書くことがポイントである。また、知識・技能・態度の3領域に分けると測定が容易である。評価しにくいものにルーブリックを入れることもある。ほか、資料を見ていただければと思う。今後は北星学園大学の運営推進会議で、時間を少しいただいて共有をしてきたいと考えている。

## 3. 到達度 WG に関する科目別打ち合わせ報告

### ①数学 (山梨大学 佐藤先生 ご報告)



#### ●プレイスメントテストの内容確認について

- ・準備はできている。Solomon 版、マークシート版の確認も終了した。
- ・ウェブで行う場合は、紙に回答のうえ、入力をしていただく方式である。
- ・プレイスメントテスト終了後の学習教材への導きについては、細かい点については、ホームページを立ち上げて記載予定。文理に分けた記載内容は今後検討。

#### ●到達度テストの今後のスケジュール

- ・6月までに、文理で分けて到達目標などを検討し、できれば統一的表现でシラバスに反映していきたい。
- ・6～10月 到達目標に応じた問題を作成。
- ・10～12月完成予定。コンテンツ化作業を行う。

ただし、統計については、統計学会のものをベースにしながら、統計の先生にお任せし進めていく。

#### ●学習内容の検討

・文系の数学のカリキュラムのあり方が不明瞭な部分があるため、今後依頼メールをお送りするので、ぜひ具体的な学習内容、テスト等を各大学1つ以上送っていただきたい。それらを元に考えていきたい。達成度を測るテストである事、大学生の数学である事を踏まえたうえで文系の数学のテストを検討していく方向であることをご理解いただき進めていきたい。

## ②日本語（愛知大学 湯川先生 ご報告）



### ●プレースメントテストについて

- ・3月25日の締切に向けた Solomon 版、Moodle 版のプレースメントテストの最終的な確認に時間をかけた。
- ・紙ベースの問題についてはこちらで修正するように進めている。
- ・シラバスの到達目標について、文言を変える検討を行った。

## ③英語（佐賀大学 藤井先生 ご報告）



### ●プレースメントテストについて

- ・Solomon 使用大学から参加者がいなかったため、Moodle 版で確認を行った。内容的には問題がなかったため、説明文の文言について確認した。
- ・シラバスについては、原案ということで、今の時点でこれ以上深い話は難しいということで、今後の検討課題として確認した。共通認識

として TOEIC ベースでどれくらい力がついたかを図ることをもとにすることを確認した。

- ・学習内容の検討としては、今の時点で、マクミランのプリズムシリーズを使う大学が多かった。これに従う学習教材を作成する。
- ・到達度テストのスケジュールについて、2時間くらいの会議では十分な検討が難しいので、佐賀大学で7月に英語についてじっくりと会議を行うこととした。

## ④ 情報（北星学園大学 金子先生 ご報告）



### ●プレースメントテストについて

- ・プレースメントテストは完成済みで、北星学園大学で実施済みであるので、文言の修正はないが、Moodle、Solomon の表示については最終確認を今後行う。
- ・到達目標検討前に、各大学の情報シラバスを集め検討したところ非常に多様であった。
- ・多くの大学に共通する部分として、オフィスソフトの使い方、情報倫理があるので、それをもとに、シラバス等を作成することが考えられた。ただし、ソフト

やバージョンに依存し、消費期限が限られるものについては避けなければいけないという話になった。

- ・このほか、到達度テストは知識に限定して作成すること、シラバスの公開はステークホルダーの許可を待つこと、Moodle データベースを用いて教材作成・修正を行うことなどを決定した。なお、到達度テストのス

スケジュールとしては、6月のプレイスメントテストの結果を考慮して話し合い、11月ごろに完成し、12月に試行ができる方向を考えている。

## ⑤ 学修観（桜の聖母短期大学 加藤先生 ご報告）



- ・ Solomon 版と Moodle 版の表現をそろえた。
- ・ 学修観の調査時、学生にわかりやすい言葉で調査を説明したもの（連携についての説明、個人情報の取り扱い）を各大学でつけることとした。
- ・ 平成 24 年度版報告書の内容について確認をお願いした。
- ・ 学修観と PROG の結果が出た。分析、活用について今後検討。ただし、結果データについては、

大学ごとの結果が出ているのでコピー不可とし、閲覧のみとすることとした。

- ・ ルーブリックの検討をしていくことも確認をした。
- ・ ポートフォリオについては、そもそも書けないという学生に対する指導をどうするのかという問題が出された。
- ・ 今後は学修観に関する教職員のFDも重要である。8大学の学生に向けたVTRを作るというアイデアも出された。
- ・ 学修観における重要なキーワードである「振り返り」「気づき」「課題を設定できる」をもとにシラバスを作成していくことを確認した。
- ・ 学修観のアンケートは、半期授業の最初と終わりをもって比較することもできるという話が出された。
- ・ なお、会議の時間が足りないので、次年度は、推進委員会2日目、午後にも会議を行っていきたい。

## 4. プレイスメントテスト実施の流れ（事務局 千歳科学技術大学 石田）

### ●作成・実施・返却の流れ

- ・ 各大学の実施状況は異なる。事務局として各大学でやりやすいやり方を考えつつも、実施のやり方は、各大学とこちらでやりとりをさせていただき点ご理解をいただきたい。
- ・ 実施時間は、数学の理系2のテストのみ45分。ほかは原則30分で行う。
- ・ テストについては、3月25日までにすべての修正版アップ、順次公開していき、3月末までに修正し実施環境を整える。厳しいスケジュールのなかで修正確認のやりとりをすることになるので、なにとぞご協力をお願いしたい。なお、今後修正等が厳しいスケジュールで進む中で、最終的に各大学で最終版を印刷する場合は、最終の確認を待って行うようお願いしたい。
- ・ 実施～返却の流れは、5月12日までに試験を実施していただき、事務局にデータを送っていただく。その後、1週間で、データを印刷できる準備を事務局で行う。印刷した個票の返却を各大学で行っていただく。
- ・ 受験者数が述べ1万人を超えるデータになるので、後送受検者データがいくつか出て対応する場合、平均点等のデータに入らなくても影響はしないかと思われる。



### ●問題用紙・解答用紙の配布

- ・数学のみ PDF での配布となる。他は Moodle 上で公開する。
- ・数学については、マークシート用と e-learning で問題用紙が異なる。
- ・用紙サイズやレイアウト等は各大学で変更可。
- ・マークシート用で実施の際は用紙を各大学で準備していただきたい。

### ●試験実施上の注意事項

- ・数学と学修観で、試験実施上の注意事項がある。必ず統一実施、していただきたい。
- ・紙を配布した場合は回収をお願いしたい。来年度以降、同じテスト内容を実施する方向なので、原則すべての科目の回収をお願いしたい。

<数学>eラーニング、マークシート等の実施形態に関わらず、問題用紙を配布する。学生へは、試験実施後マークシート、解答用紙の入力をさせていただきたい。

<学修観>問題用紙、マークシートのほかに試験実施上の注意事項がある。併せて配布していただきたい。

### ●採点、データ入力について

- ・事務局から送るシートに入力すると、自動的に採点、各項目別得点が表示されるものを現在作成中である。
- ・事務局には個人情報を送らないかたちであるので、個票返却の際には、各大学で個人情報入力、返却していただくこととなる。

## 5. 各大学における大学連携への取組・実施状況

### ●千歳科学技術大学

- ・今年度、プレイスメントテスト（数学、英語、日本語、学修観）の試行を行った。テスト後、学習を促したらほとんどやらなかった。そのためもう一度、夏休み前に促しをしたら、結果は全体の1割の学修であった。今後、主体的に学びに取組むという課題について試行的に取組んでいきたいと考えている。
- ・eラーニングの教材開発は引き続き行い、来年度以降も他大学と共有していきたい。

### ●山梨大学

- ・理事から依頼を受けて、プレイスメントテストの情報は全学で行う。数学は、環境学部等で行う。
- ・e-learning については、ポートフォリオ委員会を作って構築予定。成績診断票の可視化テンプレートを用意する計画である。
- ・学習教材作りの準備も進めている。
- ・ゼロックスとの共同研究も進行中である。

### ●愛媛大学

- ・e-learning モデル校として、平成 25 年度 4 月、教育デザイン室を正式発足予定。その準備を進めている。

### ●佐賀大学

- ・教材作成として、Moodle に英語のコースをあげた。ネット授業のコースも提供。今回のプレイスメントで

の問題作りの途中経過で出てきた問題もすべてあげている。学生の英語教材の問題として使用できるのではないか。TOEIC のリーディングの教科という形の準備や、プリズムのセカンドエディションの作りこみも順次進めている。

- ・模擬の TOEIC 試験（全 200 問）について、3 月末に全部出来上がる予定。試験前の模擬。または半分受けてみる等の使用が可能である。

#### ●北星学園大学

- ・直接関連する学内の事業はないが、プレイスメントテストについて状況を述べると、調査という意味合いで学生には伝える予定である。テストというより、自分を調べる調査であるという形である。やっていくうちでの問題点は今後共有する予定である。

#### ●創価大学

- ・卒業生調査について、今年度は、三菱総研さんに委託し、調査項目をいただく。早く卒業生が出る桜の聖母短期大学には、先に先行してデータを集める。今後、卒業後に必要なコンピテンシーを確認していきたい。アンケートを実施するためのサイトを、フリーソフトを使って今年度末までに立ち上げる。
- ・教材作成について、LMS との連携等について調査をする予定である。
- ・ループリックの翻訳はどういうふうにするか、予算内でやっていきたい。

#### ●愛知大学

- ・コンテンツ関係では、千歳技術科学大学と日本語のコンテンツを引き続き作成していく。英語は、入学前教育で使っているコンテンツを引き続き、修正を加えアップしていきたい。
- ・学生については、入学前教育を行っているので、試験を重複しないように配慮しながら、実施した学生とそうでない学生もみながら、進めていきたい。地域政策学部中心の取組なので、今後、報告を学内で行い、他の学部にも取組が広がれば、と考えている。

#### ●桜の聖母短期大学

- ・プレイスメントテストはすべて紙で行う。英語 4 月 4 日、日本語 4 月 27 日、数学・情報・学修観 4 月 27 日までに行う予定である。
- ・e ラーニングについては、いろいろな動画を作りたい。
- ・ポートフォリオは、作り始めている。Moodle と Mahara はこれから立ち上げていきたい。
- ・ループリックは本学内教員に共有したい。
- ・卒業生調査は、アクティブな学生を中心になると思うが、創価大学と協力しやっていきたい。

## 6. 第 5 回運営推進委員会について

次回は、 2013 年 6 月 8 日（土）10 時 00 分～17 時 00 分

9 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分

北星学園大学にて行う。

以 上

(2013 年 3 月 23 日

議事録作成 リアセック 笠井)